

当院における臭気軽減の取り組み
—ご家族アンケートと測定データをもとに—

杉野 美穂
医療法人聖志会渡辺病院

【はじめに】加齢や疾患により、排泄の問題、セルフケア不足が生じ、これらを起因とした臭気が生じるため、介護・医療を担う施設や病院の環境の中で、解決すべき課題のひとつに臭気がある。今回、当院において、実施している排泄物臭、口臭の対策について、アンケートを実施し、臭気測定器で測定したのでその結果について報告する。

【倫理的配慮】個人情報・秘密保持に十分な配慮を行い、病院の倫理委員会の承諾を得た。

【当院の臭気対策】排泄物臭の対策として、迅速な使用後のオムツの処理、病棟外への運搬、清掃の容易なトイレの導入、1日4回以上のトイレ清掃、定期的な換気を実施した。口臭対策として、すべての病棟に歯科衛生士を配置し、歯科衛生士による毎日の口腔ケアを実施した。週1回の歯科受診・往診により歯科と連携し、軽微な齲歯でも発見すれば1週間以内に受診できるシステムを構築した。また、病棟職員の口腔ケアの知識・技術の向上を目的とし、介護口腔ケア推進士の資格を取得する支援を実施し、病棟スタッフの26%が資格を保有するにいたった。

【方法】家族に対し、病棟・病室の臭気をどのように感じているのか、環境省の快・不快度尺度を用いてアンケートを実施し、9段階評価した。また、臭気計測器(ポータブ

ルニオイセンサーPOLFA)を用いて、病室、トイレの臭気のセンサー値を測定した。

【結果】回収のできた 31 名のうち、快は 10 名、どちらでもないが 19 名、不快は 2 名であり、不快の原因は、かび臭、体臭であった。病室、トイレのセンサー値は、329～333、324～379 であった。これは、POLFA の百貨店のトイレの参考データと近似していた。

【考察】特定の施設では、臭気対策として消臭機能製品の導入、脱臭機の設置もみられるが、費用面での負担が大きい。今回、排泄物臭、口臭など身体起源の臭い対策として我々の実施しているシステムが効果的であることがわかった。